

# 月山 (がっさん)

登山日: 2013年10月14日(月)

大和工営一等三角点の会

(冠字番号 以 8 )

成果 X=-160716.185m  
Y=-70281.139m  
標高 1979.48m

世界座標系「測地成果 2011」

点 の 記 抜 粹	選 造 埋 観 (備考) 高度基準点測量	明治 28 年 6 月 25 日 — 明治 31 年 7 月 25 日 平成 8 年 9 月 13 日	選 点 者 — 埋 標 者 観 測 者	館 潔彦 — 川又藤四郎 鶴田 享
所在 山形県東田川郡立川町大字立谷沢字本沢 1 番地				

コースタイム (黒字は標準タイム)

登山口 (姥沢口駐車場)	→	牛首下	→	牛首	→	月山山頂	→	牛首	→	金姥
2.5km		0.8km		1.1km		1.1km		0.9km		
8:35		10:10		10:45		11:50		14:05		14:35
1:50		0:30		1:00		0:50		0:20		
		10:20		10:55		12:45		14:10		14:45
	→	姥ヶ岳	→	リフト上駅	→	リフト上駅	→	登山口		
	0.5km		0.7km		標高差 320m		0.7km	(姥沢口駐車場)		
	0:20		0:20		0:15		0:10			
		14:55		15:15		15:46		16:15		
		15:00		15:31		16:05				

## 快晴・絶景の山 一等三角点「月山」へ

一等三角点のある月山は、山形県の中央部に位置し、その山容は庄内はもとより、内陸の新庄や山形などほぼ県内全域から仰ぎ見ることができる。月山は出羽三山の主峰で、古来より「山伏の山」山岳宗教の霊場とし、多くの人々から畏敬の念をもってその信仰の対象とされてきた。

現在、登山口として、西川町側からは姥沢口、本道寺口それに岩根沢口の3箇所、最上側からは大蔵村肘折口、庄内側からは羽黒からの月山八合目口と湯殿山口が一般的である。

新庄最上に住む私達にとっては月山八合目口からの登山が手軽であるが、今回は西川町姥沢口から一等三角点月山への登山を行うことにした。登山なのに、標高差約320mの間がリフトを利用して下山することが出来るのも楽しみである。

## 鳥海山に初冠雪 !?。その朝、出発 !!

当日の朝、集合場所の会社に向かう道すがら、鳥海山の方に目を向けた。すると朝霧のその山頂が白くなっているのが確認できた。何と、それは今シーズンの「鳥海山初冠雪」であった。慌てて月山に目を転ずると、薄い朝霧の上にクッキリとした稜線を浮かべていた。10月半ばの朝の冷え込みは高気圧に覆われた「放射冷却現象」の為であり、当日の秋晴れが約束されたかのようなのである。

Am6:15に会社を出発した。ゲスト2名を加えた5名での山行となった。

国道112号を経由して西川町姥沢登山口にAm8:10に到着した。

周辺は紅葉が始まっていて、駐車場は県外ナンバーの車も多く、関西方面のナンバーの車も目についた。

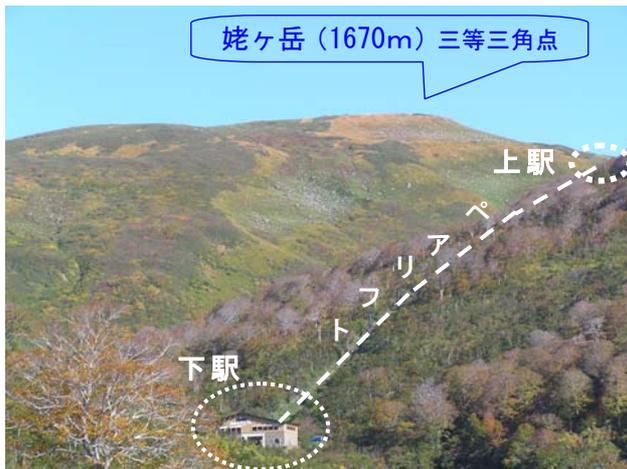


西川町姥沢登山口の駐車場 (標高 1160m)

## リフトのある西川町姥沢登山口

Am8:20に出発することにして、身支度を調えた。見上げると右側に目指す一等三角点月山が、左には姥ヶ岳と下山に使用予定のリフトが見え、その上空は「約束」通りに雲ひとつない青空が広がっていた。リフトは毎年10月第3日曜日で営業を終了するのでラストチャンスである。

月山は「出羽三山神社の主峰」「磐梯朝日国立公園特別区の山」「日本百名山の山」「一等三角点の山」「夏スキーの山」等々、様々な「顔」を持っており、お目当てのモノを求めて国内外から数多くの観光客がやって来ている。姥沢口の駐車場にして、すでに1160mの標高である。



姥ヶ岳と月山ペアリフト



月山山頂の上空に 澄んだ青空が広がる

## 姥沢登山口から牛首へ

駐車場を出発して歩き出す。登山道の入口で、任意だが月山の「環境美化協力金」を呼びかける看板と、小さな受付小屋の窓口に観光協会の方が待ちかまえている。協力金任意で義務ではないのだが、その窓口に吸い込まれるように近づき1人当たり200円を支払っていた。

その先はすぐペアリフト下駅だが、私たちは右側の登山道に進んで行った。靴紐を結び直すため「先に行行って・・・」と先頭を交替した。結び終えて立ち上がり、登山口を振り返ってみると観光客の列が絶えることなく続いていた。その列はペアリフト下駅への舗装道路を進み、登山道に入ってくる人はほとんど見られない。

先頭を譲られた4人は、もう<sup>かんぼく</sup>灌木の登山道の中に消えていた。その後を追ったがなかなか姿が見えない。20分程追いかけてようやく水場で追いついた。



ほとんどの観光客は「リフト下駅」へ・・・



月山水「ブナのしずく」と謳った水場

## くさもみじ 草紅葉の木道をすすむ・・・

水場は並ぶように2箇所あり、それぞれ「雄宝清水」「Gassan 水 ブナのしずく」と書かれた手作りの看板が設置されていた。そして余白には「月山美化清掃協会」の名前が見て取れた。

再び先頭に立って登り始めた。すると3人程のグループが下りてきた。時刻はまだAm10:00前である。『下山が早過ぎ!?!』と思い聞いてみると、リフトで登って来て登山道から下山するのだと言う。灌木帯を過ぎると草紅葉の草原が広がった。その中に木道が延びていた。



手作りの看板とコップのある水場



草紅葉の中に2列の木道が延びる

## 眼下に内陸と庄内の絶景が広がる・・・

『カタコト、カタコト』と登山靴を鳴らしながら、複線の木道を進む。Am10:10に牛首下の分岐点に到着した。見上げると、草原から突き上がった稜線には多くの登山者が視認できる。その背景は、目の覚める様な「ジャパンプルー!?!」、いやいや、日本晴れの青空が広がる。高山で眺める青い空は、その原色の中に荘厳さを感じる。

小休止の後、緩やかな木道を登り詰めていく。牛首の稜線への手前が急登になるが、程なくして稜線の登山道へと辿り着いた。そこは多くの登山者の休憩場所になっていた。私達は、その先の郡界の稜線まで移動した。「ヒョイット」稜線に飛び出したら、前方には初冠雪で山頂部が白くなった鳥海山の姿を目にした。その左側の山裾を目で探ると、空の青よりも一段と濃い色の日本海が展望できた。振り返ると内陸・西川町姥沢口の登山路が一望できた。山と空の境界線にはいつかは山頂に登るであろう、朝日連峰西端の以東ヶ岳（一等三角点）も見渡すことができた。



## 山頂への急登は、悪路の岩場！?..

姥沢口はリフトを利用すれば、リフト上駅、牛首下分岐、牛首、金姥、姥ヶ岳、そして再びリフト上駅と（逆コースもあり）高山にして絶好のハイキングコースである。この日も若い家族連れや中高年の人達が目立つ。ただ牛首から月山山頂の間は本格的な登山コース？と云える。それも1時間程度の行程なので、初心者でも登れないことはない。急登な分、登るほどに高度感が増して、振返って眺める風景は絶景である。岩場の登山路は、あちこちに踏み後があり、濃霧で視界が効かない時は十分な注意を払う必要がある。しかし、この日のように晴れた日は他の登山者に邪魔にならないよう登り、そして休息して見渡す限りの景色を堪能しながら山頂を目指す。



振返る絶景に「疲れが吹っ飛ぶ!!」ゼエ



登る人、下る人が交錯する岩場の登山道

## お目当ての紅葉がない！！...

ここまで来て、お目当ての紅葉がないことに気付いた。遠い追憶では10月10日（体育の日）の頃が紅葉の最盛期であった筈である。でも登山路の傍の木々はもう裸木<sup>はだかき</sup>になって震えている様を目にして「あア、もう終わったんだア、」と納得した。月山にも初雪があったらしく。岩場の影には小さな雪の固まりが見られた。ここ数日、強風が吹き荒れた事も要因かも知れない。

「鍛冶稻荷神社」に辿りついた。ここまで来れば山頂はもう間近である。他の登山者に混じり最後の岩場を登り詰めて行った。足元を見つめながら一步一步登ると、突然、目の前の視界が開けた。山頂広場に飛び出たのである。時刻はAm11:50を廻っていた。

まず目前に飛び込んで来たのは、月山山頂神社と初冠雪で白くなった鳥海山の姿である。その風景に圧倒され、立ち尽くしていた。しかも360度のパノラマである。天候にさえ恵まれれば、こんなにも素晴らしい、とびっきりの景色との出会いが出来る。まさに登山の醍醐味<sup>だいごみ</sup>である。



この急坂を登り切れば、山頂に立てる筈・・・



山頂神社と鳥海山との「ご対面」です・・・

## 月山の最高峰と一等三角点 …

山頂の月山神社の拝殿は冬支度で閉じられていた。その神社を右に迂回して、標高 1979.48m 一等三角点に登った。一般には月山の標高は 1984m として知られている。三角点はその山の一番高い場所に設置されるのではなく、正確な日本地図を作製する上で他の三角点が見通し出来て測量に適した場所、将来に渡って保存可能な場所が求められる。従って山頂と三角点（柱石の天端）の標高が違う場合が多い。鳥海山（三角点 2229m、最高峰 2236m）もその一例である。

月山の場合は、三角点と山頂神社の中間の岩の頂点が最高峰の 1984m とされている。最高地点は三角点のすぐ近くにある。私達は測量会社に勤務している。本当に 1984m (1984.00m) なのか。いつか自分達でその最高峰の標高を測量してみたい。何かワクワクして楽しみである。



## 肘折から登ってみたい!!

山頂から下りて直下の登山道脇で昼食にする。正面の葉山 (1462m) と対峙する。紅葉が散り落ちた山肌は、沢筋の<sup>たいじ</sup>襲までがクッキリと浮び上がって見える。

眼下には肘折口からの登山道と念仏ヶ原を見渡すことができる。サトケンが「ああ、肘折から登ってみたい!!」との声を発した。まるで見渡す絶景に心が奪われているかのようなのである。



## 「膝が笑う!？」急坂を下る・・・

Am12:45。山頂からの下山を開始する事にした。登頂時には気が付かなかったが、山頂広場の展望台付近に初雪の名残雪なごりゆきがあった。すっかり紅葉は終わってしまったが、実に爽快である。山頂部から下りて「鍛冶稻荷神社」の前を通り過ぎ、急坂を下る。今から山頂に登ってくる登山者もいた。足元の岩場と前方の山脈を交互に見つめながらゆったりと下山し、Pm2:05 に急坂下の牛首うしづねに到着した。ここで問題なのが、下山が苦手なゲスト2人の膝の状況である。「大丈夫か!？」と声をかけると、「大丈夫ッス・・・」と返答はするものの、なんとも眉唾物まゆつばものである。



山頂に残る初雪の残骸!?!・・・



## 朝見上げた 稜線を歩く!?!・・・

牛首からは朝に見上げた稜線を歩いて姥ヶ岳(1670m)に向かう。湯殿山口への分岐となる金姥かなうばまでが20分、金姥から姥ヶ岳まで20分が標準タイムである。緩やかな登山道をPm2:10に歩き出し、姥ヶ岳にはPm2:50に到着した。

膝が笑い出した2人も、何とか持ちこたえて辿りついた。「あと20分程下ればリフトに乗れるぞオ。」と声をかけた。かぼそい声で「ありがとオ、ございます。」の声が返ってきた。



晩秋の光と陰の歩道・・・



姥ヶ岳から月山山頂を振り返る・・・

## 三角点の柱石が剥き出しに・・・

姥ヶ岳で小休憩をとる。ドッシリとした広い山頂部は木道が整備され、所々にベンチが設置されていた。庄内側の一角には多くの観光客が絶景を楽しみながら寛いでいた。

三等三角点の山である姥ヶ岳の柱石へは専用の木道もある。しかし、長年の風雪が凄まじいためなのか、通常79cmある柱石は剥き出しになっていて、なんとも痛々しく感じられた。



## 最後の下山路、リフト目指して！?

Pm3:00。いよいよリフト上駅を目指して下山する。眼下には上駅の赤い屋根が見える。例の2人も悪戦苦闘しながらリフト上駅に到着した。

登頂した月山を振り返ってみると、紺碧の空に浮かんでいた。天候が変わりやすい晩秋の山行が、願ってもない小春日和の1日となった。

リフトの営業はPm4:30で終了する。リフト上駅にいる登山者の数もまばらになっていた。



## リフトで下山できる・・・

膝が悲鳴!?!をあげていたゲスト2人の顔には笑顔が戻った。(リフトで下山できる・・・)

Pm3:45。「お父さん、先に座って」と乗り込んだ老夫婦の後に、私達も順次リフトに乗り込んだ。乗った途端、体重とザックの重みでリフト大きく前後に揺れた。慌てて座席支柱にしがみついた。それも数回の揺れで収まってきた。



## 快適な 15 分間のリフトでの下山 …

リフトの揺れが収まると、周囲の景色を見物する余裕が出てきた。標高差 320m を 15 分程度で下るのだが、リフトに座っている感覚は結構長く感じられた。周囲には所々に、ナナカマドの赤い実が見られた。それが背後の青空に映えて見事である。

リフトワイヤーが回転ローラーを通過する時の「ガタン」という振動が全身に響いて心地良い。そしてその度毎に、グングン高度が下がっていくのが実感できる。そしてリフトは下駅の駅舎に吸い込まれるようになって行った。係員の手助けを受けリフトから離れ、無事に下山した。



グングン、駅舎に吸い込まれていく !!



リフト終点、下駅到着です !!

## 山の一日が終わるリフト駅 …

下山の解放から、下駅の売店を覗いて土産<sup>のぞ</sup>や記念品<sup>みやげ</sup>を物色した。リフトの営業が Pm4:30 までなので、さすがに登山客はもう来ない。案内の窓口で、これから入浴できる温泉を紹介してもらったら、下の志津温泉でも良いし国道 112 号の道の駅の脇にもあると教えてもらった。

駐車場に戻り、堅く縛り付けていた登山靴の靴紐を解く。解放感が全身に広がる。朝と同じように見上げた山の頂<sup>いただき</sup>は、西日に輝いていた。



Pm4:00 過ぎ、閑散とした月山ペアリフト

## 一等三角点の山、出羽三山の主峰「月山」登山のススメ…

月山は、松尾芭蕉が「奥の細道」の中で『雲の峯 いくつ崩れて 月の山』と詠んでいる。山形県の中央部にあって庄内、内陸の多くの場所から眺められる出羽三山の主峰である。山形のスポーツ県民歌にも謳われているように、山形県民に広く慕われてきた山である。

月山は、月山観光ガイドの会が案内した人だけで、2013 年度は 1 万 1300 人が訪れているという。初心者にも最適な月山八合目からは 3 時間程で、無理なく月山に登頂できる。又、肘折口登山口からは、17km、約 9 時間の行程で中級向きではあるが、念仏ヶ原湿原等の原風景<sup>げんふうけい</sup>が楽しめる。どのコースも高山植物の色鮮やかさと、そこで目にする絶景には必ずしや心奪われる事だろう。

私達は、一等三角点と最高峰の標高が違うこの山。いつかは実際に水準（高低）測量を行い、最高地点の標高を確認したいものと思う。いろんな事をお目当てに、月山の楽しみは尽きない。